

第131回

トラック運送業界の景況感（速報）

令和7年7月～9月期

2025年9月の日銀短観調査によると、大企業の業況判断DIは製造業が14（前回比+1）、非製造業が34（前回比±0）と、横ばいに推移している。

しかし、トラック運送業界においては、一般貨物の輸送数量減少、燃料価格の高止まりや物価高による運送原価の上昇分を十分転嫁できず、営業利益・経常利益は悪化傾向にあることから、景況感は前回▲20.0から▲24.1～4.1ポイント悪化した。

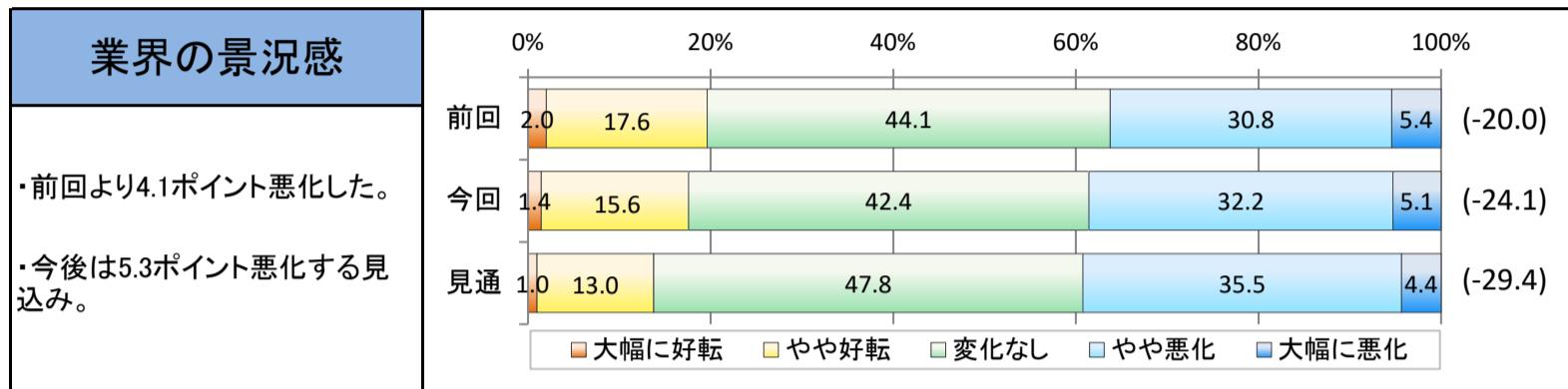
なお、来期の見通しは、事業環境の不透明感や人材不足、物価上昇等を織り込み、景況感は今回▲24.1から▲29.4～5.3ポイント悪化する見込みである。

令和7年11月14日

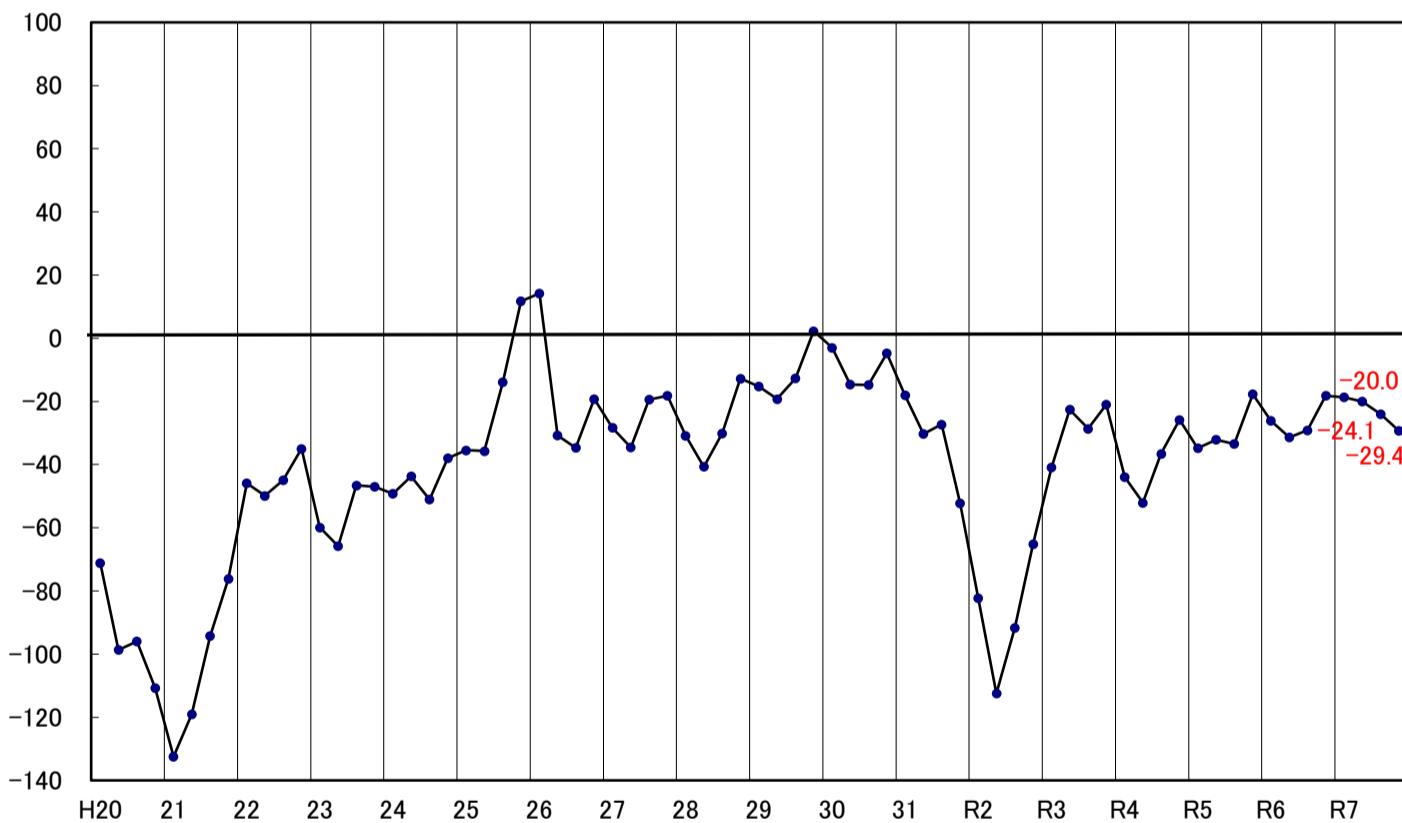
公益社団法人 全日本トラック協会

1 業界の景況感:今回(令和7年7月～9月期)の概況と今後の見通し

今回の状況	・今期、一般貨物の輸送数量減少、燃料価格の高止まりや物価高による運送原価の上昇分を十分転嫁できず、営業利益・経常利益は悪化傾向にあり、景況感は前回▲20.0から▲24.1へ4.1ポイント悪化した。
今後の見通し	・来期の見通しは、事業環境の不透明感や人材不足、物価上昇等を織り込み、景況感は今回▲24.1から▲29.4へ5.3ポイント悪化する見込みである。



トラック運送業界の景況感(業況判断DI)の推移



(注1)各グラフ(3段の横棒グラフ)の上段は前回(R7.4月～6月期)の状況、中段は今回(R7.7月～9月期)の状況、下段は今後(R7.10月～12月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比の回答である。

(注2)各グラフ(3段の横棒グラフ)の構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

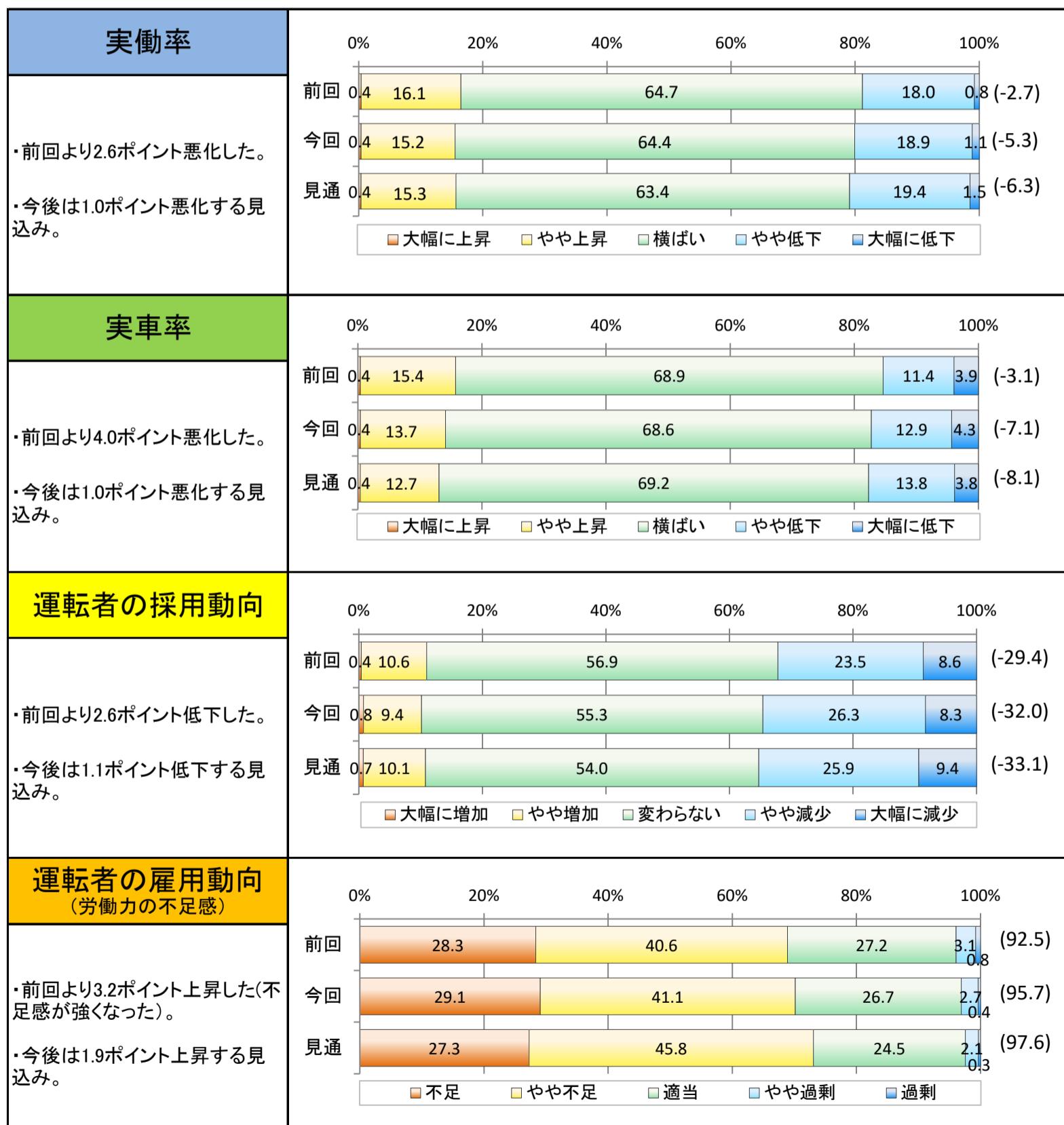
(注3)各グラフ(3段の横棒グラフ)右側にあるカッコ内は判断指標。各判断指標は、各設問の回答に対し、「大幅に増加・上昇・好転、労働力不足」は+2、「やや増加・上昇・好転、労働力不足」は+1、「横ばい」は0、「やや減少・低下・悪化、労働力過剰」は-1、「大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰」は-2の点数に置き換え、平均を100倍することにより各判断指標を算出している。

A(設問Aの回答者数)=a1+a2+a3+a4+a5(設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

指標={(+2×a1)+(+1×a2)+(0×a3)+(-1×a4)+(-2×a5)}÷A×100

2 共通の概況①: 今回(令和7年7月～9月期)の状況と今後の見通し

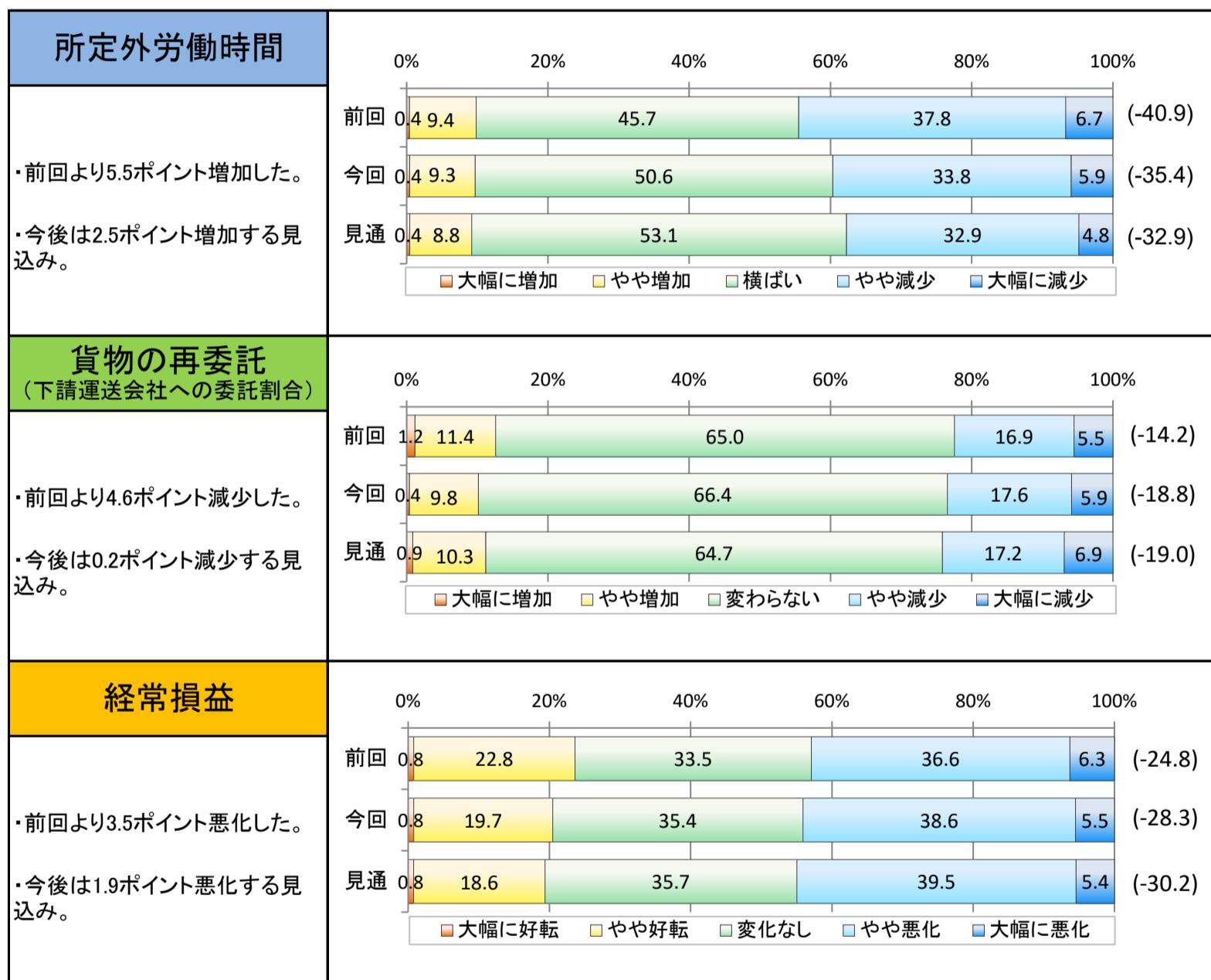
今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 実働率は▲5.3(前回▲2.7)と2.6ポイント悪化、実車率は▲7.1(前回▲3.1)と4.0ポイント悪化し、輸送効率は悪化した。 運転者の採用動向は▲32.0(前回▲29.4)と2.6ポイント低下、運転者の雇用動向(労働力の不足感)は95.7(前回92.5)と3.2ポイント上昇し、労働力の不足感は高くなつた。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 実働率は▲6.3(今回▲5.3)と1.0ポイント悪化、実車率は▲8.1(今回▲7.1)と1.0ポイント悪化する見込みである。 運転者の採用動向は▲33.1(今回▲32.0)と1.1ポイント低下し、運転者の雇用動向は97.6(今回95.7)と1.9ポイント上昇し、労働力の不足感は一段と強くなる見込みである。



(注4)雇用状況については、上段は前回(R7.4月～6月期)の状況、中段は今回(R7.7月～9月期)の状況、下段は今後(R7.10月～12月期)の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を集計している。

3 共通の概況②: 今回(令和7年7月～9月期)の状況と今後の見通し

今回の 状況	<ul style="list-style-type: none"> 所定外労働時間は▲35.4(前回▲40.9)と5.5ポイント増加、貨物の再委託(下請運送会社への委託割合)は▲18.8(前回▲14.2)と4.6ポイント減少した。 経常損益は、前期に続き、運送原価アップに対して十分に価格転嫁できていない状況を反映し、▲28.3(前回▲24.8)と3.5ポイント悪化した。
今後の 見通し	<ul style="list-style-type: none"> 所定外労働時間は▲32.9(今回▲35.4)と2.5ポイント増加し、貨物の再委託は▲19.0(今回▲18.8)と0.2ポイント減少の見込みである。 経常損益は、物価高、賃金引上げ等、運送原価アップに対して十分に価格転嫁できていない状況を反映し、▲30.2(前回▲28.3)と1.9ポイント悪化する見込みである。



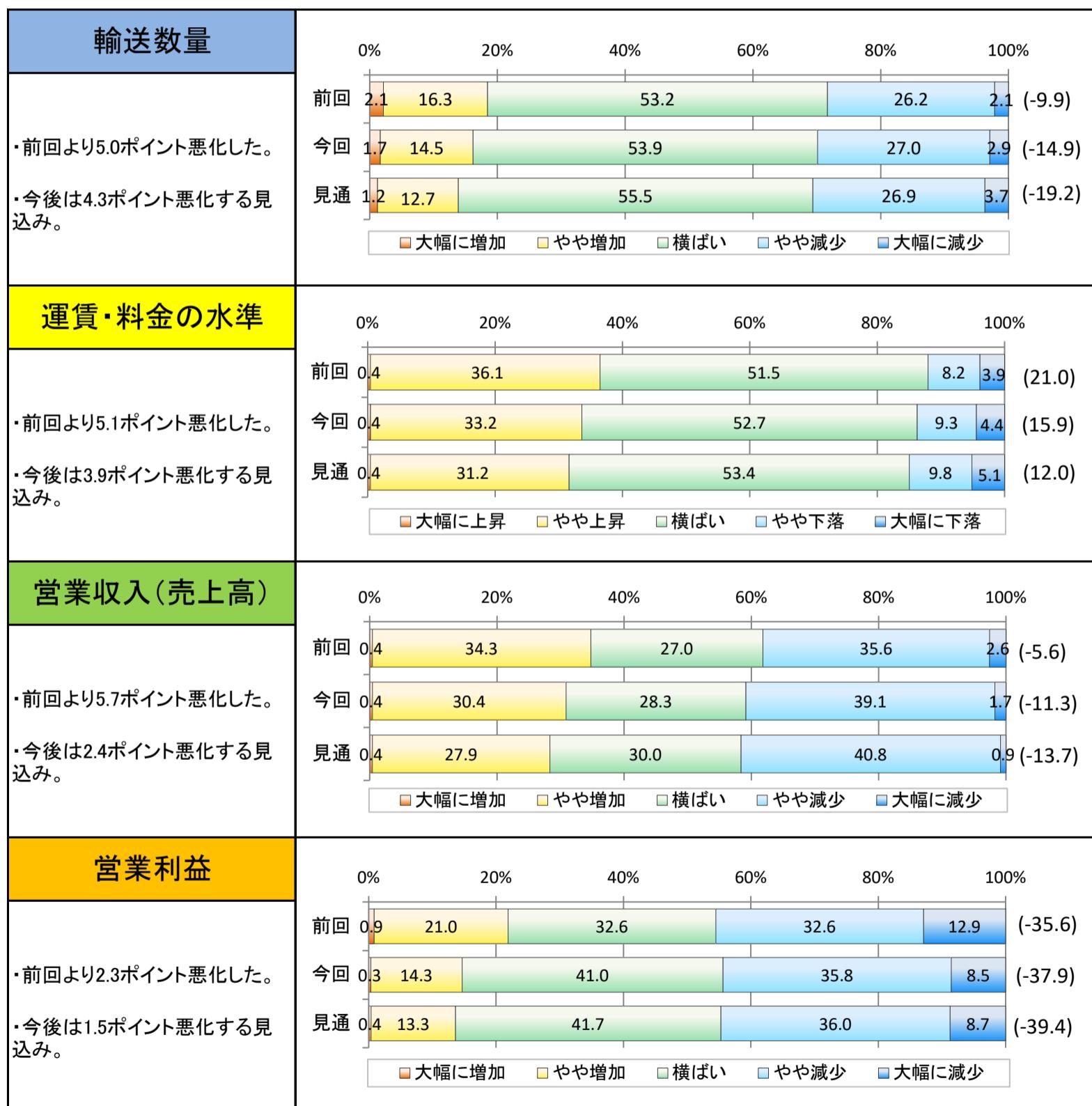
【調査の概要】

平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第131回調査は、令和7年10月1日に、モニターに対して調査開始、令和7年10月31日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者 全体
85	417	492

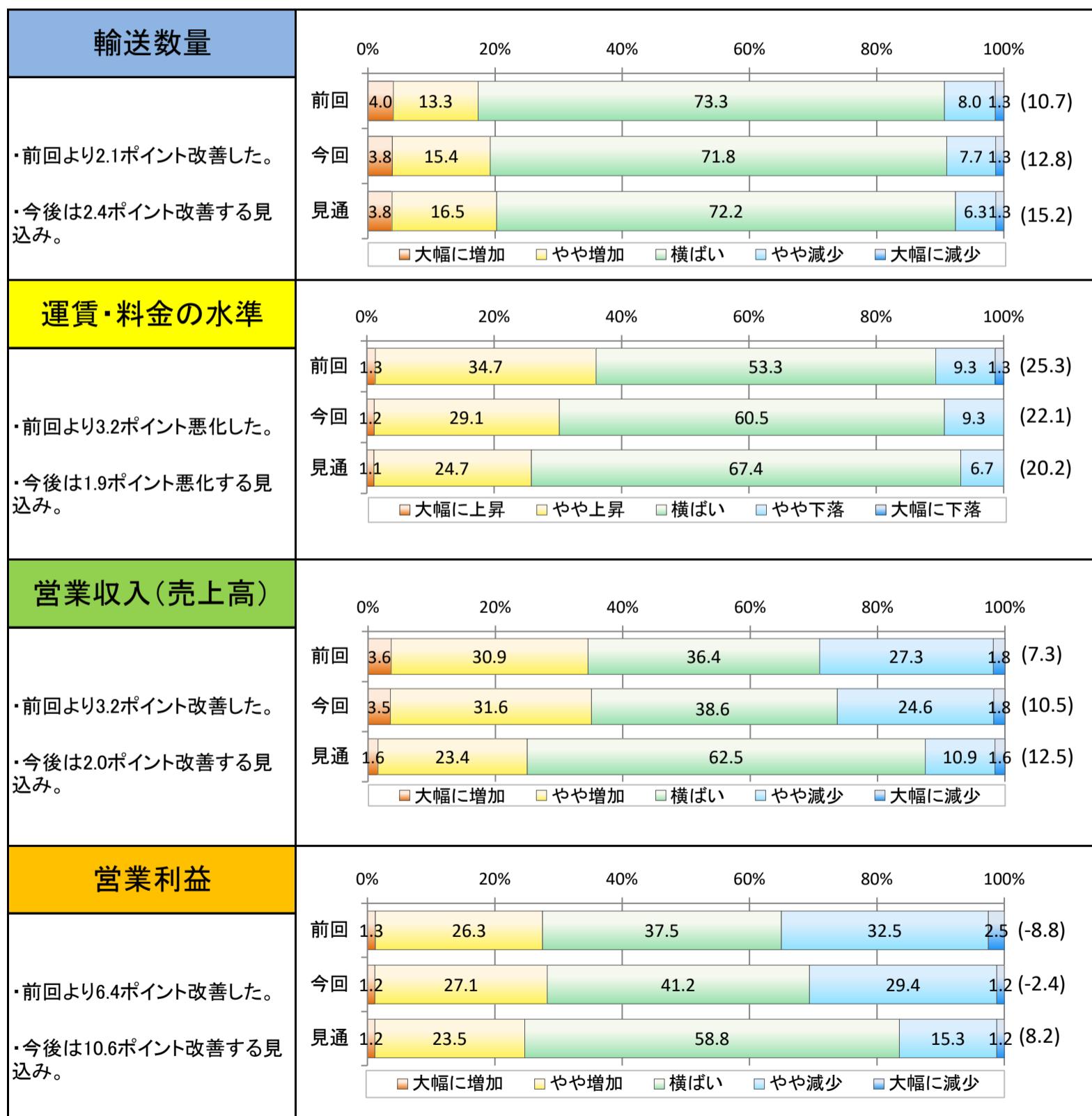
4 一般貨物: 今回(令和7年7月～9月期)の状況と今後の見通し

今回の 状況	<ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、輸送数量は▲14.9(前回▲9.9)と5.0ポイント悪化、運賃・料金の水準は15.9(前回21.0)と5.1ポイント悪化したことから、営業収入(売上高)は▲11.3(前回▲5.6)と5.7ポイント悪化した。 営業利益は運送原価上昇に対して価格転嫁が十分に進捗していないことから、▲37.9(前回▲35.6)と2.3ポイント悪化した。
今後の 見通し	<ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、輸送数量は▲19.2(今回▲14.9)と4.3ポイント悪化、運賃・料金の水準は12.0(今回15.9)と3.9ポイント悪化することから、営業収入(売上高)は▲13.7(今回▲11.3)と▲2.4ポイント悪化する見込みである。 営業利益は、来期の事業環境の不透明感を反映し、▲39.4(今回▲37.9)と1.5ポイント悪化する見込みである。



5 特積貨物: 今回(令和7年7月～9月期)の状況と今後の見通し

今回の 状況	<ul style="list-style-type: none"> 特積貨物では、運賃・料金の水準は22.1(前回25.3)と3.2ポイント悪化したものの、輸送数量は12.8(前回10.7)と2.1ポイント改善し、営業収入(売上高)は10.5(前回7.3)と3.2ポイント改善した。 営業利益は▲2.4(前回▲8.8)と6.4ポイント改善した。
今後の 見通し	<ul style="list-style-type: none"> 特積貨物では、運賃・料金の水準は20.2(今回22.1)と1.9ポイント悪化するものの、輸送数量は15.2(今回12.8)と2.4ポイント改善し、営業収入(売上高)は12.5(今回10.5)と2.0ポイント改善する見込みである。 営業利益は8.2(今回▲2.4)と10.6ポイント改善する見込みである。



※特積貨物の指標は、「宅配貨物」及び「宅配以外の貨物」の各指標を統合

6 事業者特性別の特徴①: 規模別・品目別 業界の景況感

規 模 (注5)	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模事業者 : 12.6(前回16.3)と3.7ポイント悪化、今後は6.5と6.1ポイント悪化見通し。 ・中規模事業者 : ▲24.9(前回▲23.0)と1.9ポイント悪化、今後は▲28.3と3.4ポイント悪化見通し。 ・小規模事業者 : ▲29.3(前回▲27.1)と2.2ポイント悪化、今後は▲32.6と3.3ポイント悪化見通し。 																				
事業規模別 業界の景況感に関する指標の推移																					
品 目 (注6)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>大規模</th> <th>中規模</th> <th>小規模</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5. 10~12月期</td> <td>16.3</td> <td>-23.0</td> <td>-27.1</td> </tr> <tr> <td>R6. 1~3月期</td> <td>12.6</td> <td>-24.9</td> <td>-29.3</td> </tr> <tr> <td>R7. 4~6月期</td> <td>12.6</td> <td>-24.9</td> <td>-29.3</td> </tr> <tr> <td>見通し 10~12月期</td> <td>6.5</td> <td>-28.3</td> <td>-32.6</td> </tr> </tbody> </table>	期間	大規模	中規模	小規模	R5. 10~12月期	16.3	-23.0	-27.1	R6. 1~3月期	12.6	-24.9	-29.3	R7. 4~6月期	12.6	-24.9	-29.3	見通し 10~12月期	6.5	-28.3	-32.6
期間	大規模	中規模	小規模																		
R5. 10~12月期	16.3	-23.0	-27.1																		
R6. 1~3月期	12.6	-24.9	-29.3																		
R7. 4~6月期	12.6	-24.9	-29.3																		
見通し 10~12月期	6.5	-28.3	-32.6																		
品目別 業界の景況感に関する指標(一般貨物)																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>前回</th> <th>今回</th> <th>見通し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消費関連貨物</td> <td>-22.3</td> <td>-26.4</td> <td>-29.5</td> </tr> <tr> <td>建設関連貨物</td> <td>-15.1</td> <td>-14.3</td> <td>-18.6</td> </tr> <tr> <td>機械関連貨物</td> <td>-21.3</td> <td>-20.2</td> <td>-25.6</td> </tr> <tr> <td>その他貨物</td> <td>-22.3</td> <td>-35.6</td> <td>-45.6</td> </tr> </tbody> </table>	品目	前回	今回	見通し	消費関連貨物	-22.3	-26.4	-29.5	建設関連貨物	-15.1	-14.3	-18.6	機械関連貨物	-21.3	-20.2	-25.6	その他貨物	-22.3	-35.6	-45.6
品目	前回	今回	見通し																		
消費関連貨物	-22.3	-26.4	-29.5																		
建設関連貨物	-15.1	-14.3	-18.6																		
機械関連貨物	-21.3	-20.2	-25.6																		
その他貨物	-22.3	-35.6	-45.6																		

(注5) 規模別分類

大規模事業者 : 101両以上

中規模事業者 : 21両以上100両以下

小規模事業者 : 20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物 : 農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物 : 林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物 : 電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

その他貨物 : 石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

7 事業者特性別の特徴②: 地域別・事業形態別 業界の景況感等

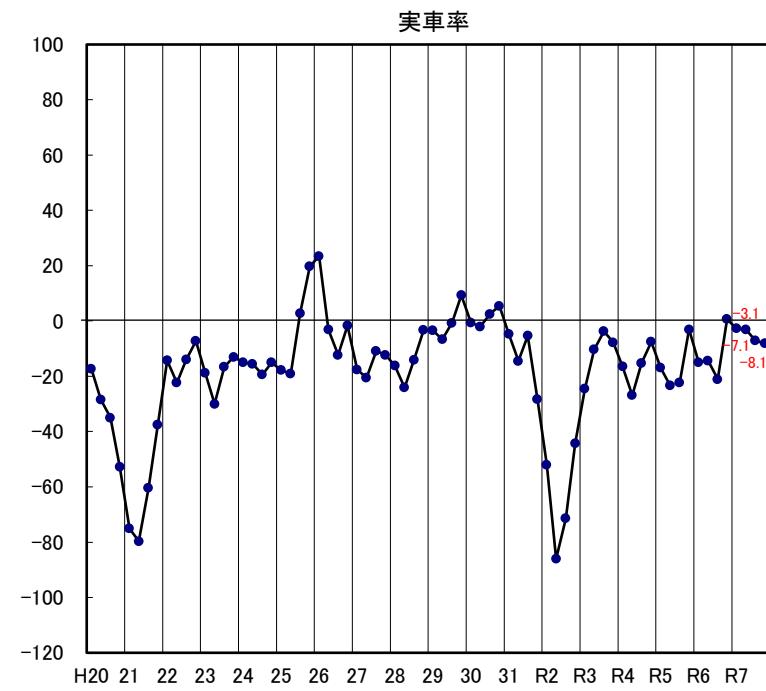
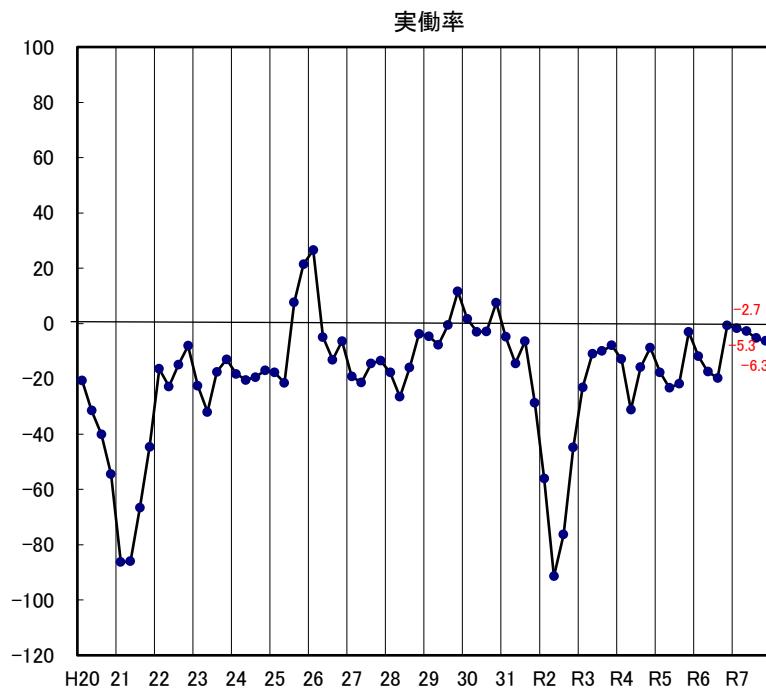
地域 (注7)	<ul style="list-style-type: none"> 地域別の今期実績は、輸送数量の減少、物価高による原価上昇分の転嫁が十分でないことから、全ての地域で悪化した。 来期の見通しは、事業環境の不透明感を反映し、全ての地域で悪化する見込みである。 																																							
<p>地域別 業界の景況感に関する指標(一般貨物)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>前回</th> <th>今回</th> <th>見通し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>北海道</td><td>-28.1</td><td>-29.9</td><td>-33.2</td></tr> <tr><td>東北</td><td>-15.2</td><td>-18.2</td><td>-21.6</td></tr> <tr><td>関東</td><td>-23.1</td><td>-25.3</td><td>-27.5</td></tr> <tr><td>北陸信越</td><td>-10.6</td><td>-13.5</td><td>-15.4</td></tr> <tr><td>中部</td><td>-31.8</td><td>-32.5</td><td>-35.2</td></tr> <tr><td>近畿</td><td>-15.3</td><td>-16.3</td><td>-18.6</td></tr> <tr><td>中国</td><td>-9.5</td><td>-12.5</td><td>-15.6</td></tr> <tr><td>四国</td><td>-22.3</td><td>-25.6</td><td>-28.2</td></tr> <tr><td>九州</td><td>-26.3</td><td>-28.6</td><td>-30.2</td></tr> </tbody> </table>	地域	前回	今回	見通し	北海道	-28.1	-29.9	-33.2	東北	-15.2	-18.2	-21.6	関東	-23.1	-25.3	-27.5	北陸信越	-10.6	-13.5	-15.4	中部	-31.8	-32.5	-35.2	近畿	-15.3	-16.3	-18.6	中国	-9.5	-12.5	-15.6	四国	-22.3	-25.6	-28.2	九州	-26.3	-28.6	-30.2
地域	前回	今回	見通し																																					
北海道	-28.1	-29.9	-33.2																																					
東北	-15.2	-18.2	-21.6																																					
関東	-23.1	-25.3	-27.5																																					
北陸信越	-10.6	-13.5	-15.4																																					
中部	-31.8	-32.5	-35.2																																					
近畿	-15.3	-16.3	-18.6																																					
中国	-9.5	-12.5	-15.6																																					
四国	-22.3	-25.6	-28.2																																					
九州	-26.3	-28.6	-30.2																																					
事業形態別 (注8)	<ul style="list-style-type: none"> 雇用動向:一般貨物、特積貨物ともに、深刻な人材不足を反映、労働力の不足感が増す傾向にある。 経常損益:一般貨物では輸送数量の減少を反映して悪化傾向、特積貨物(宅配が影響)は堅調な輸送数量を背景に改善基調となった。 業界の景況感:一般貨物は経常損益の悪化を織り込み、▲29.5と▲5.2ポイント悪化、見通しも悪化、特積貨物は4.5と2.5ポイント改善し、見通しも改善。 																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>前回</th> <th>今回</th> <th>見通し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>実働率</td><td>-3.4</td><td>-6.5</td><td>-8.1</td></tr> <tr><td>実車率</td><td>-4.0</td><td>-8.5</td><td>-9.9</td></tr> <tr><td>採用動向</td><td>-29.6</td><td>-31.2</td><td>-32.1</td></tr> <tr><td>雇用動向 (労働力の不足感)</td><td>92.1</td><td>95.6</td><td>97.2</td></tr> <tr><td>所定外労働時間</td><td>-43.1</td><td>-40.2</td><td>-34.2</td></tr> <tr><td>貨物の再委託</td><td>-15.2</td><td>-19.2</td><td>-20.1</td></tr> <tr><td>経常損益</td><td>-30.2</td><td>-34.5</td><td>-37.1</td></tr> <tr><td>業界の景況感</td><td>-24.3</td><td>-29.5</td><td>-36.2</td></tr> </tbody> </table>	指標	前回	今回	見通し	実働率	-3.4	-6.5	-8.1	実車率	-4.0	-8.5	-9.9	採用動向	-29.6	-31.2	-32.1	雇用動向 (労働力の不足感)	92.1	95.6	97.2	所定外労働時間	-43.1	-40.2	-34.2	貨物の再委託	-15.2	-19.2	-20.1	経常損益	-30.2	-34.5	-37.1	業界の景況感	-24.3	-29.5	-36.2				
指標	前回	今回	見通し																																					
実働率	-3.4	-6.5	-8.1																																					
実車率	-4.0	-8.5	-9.9																																					
採用動向	-29.6	-31.2	-32.1																																					
雇用動向 (労働力の不足感)	92.1	95.6	97.2																																					
所定外労働時間	-43.1	-40.2	-34.2																																					
貨物の再委託	-15.2	-19.2	-20.1																																					
経常損益	-30.2	-34.5	-37.1																																					
業界の景況感	-24.3	-29.5	-36.2																																					

(注7) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注8) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「特積貨物」である。

8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第3四半期見通し)

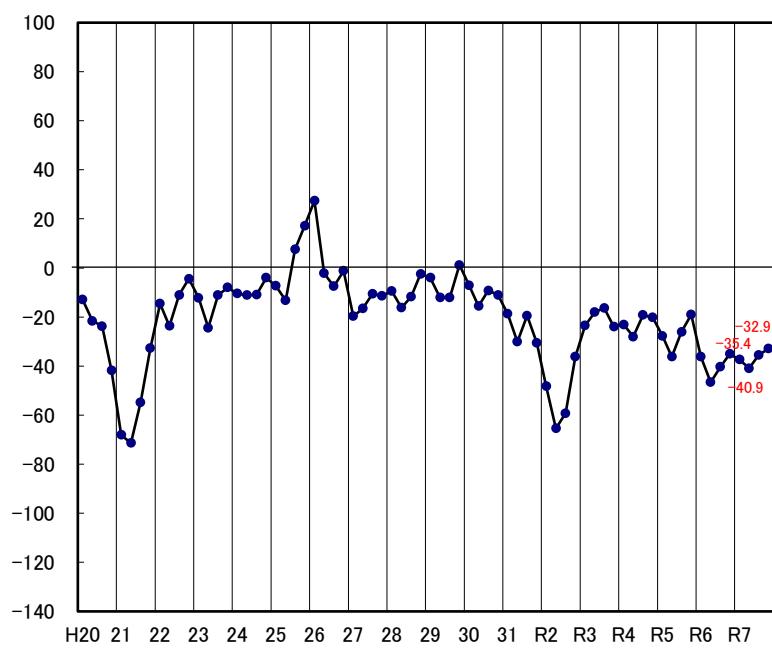
共通の概況①



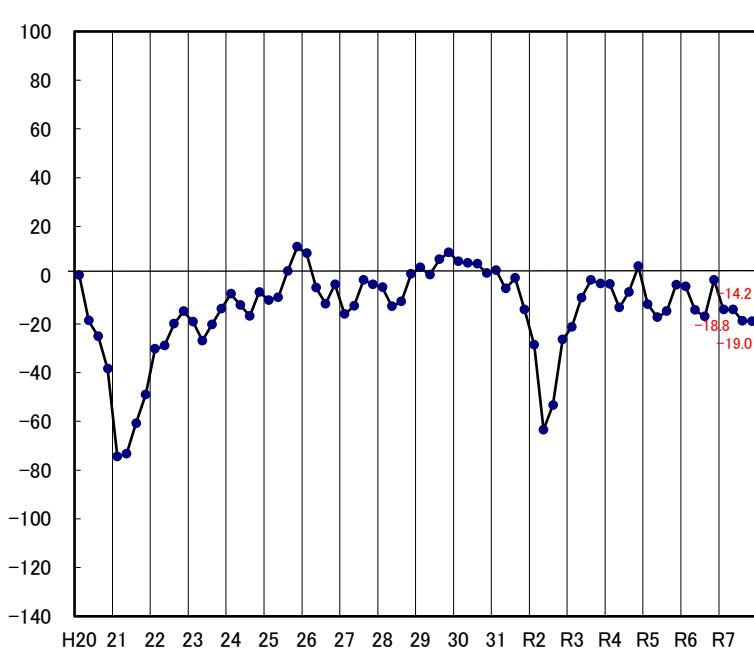
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第3四半期見通し)

共通の概況②

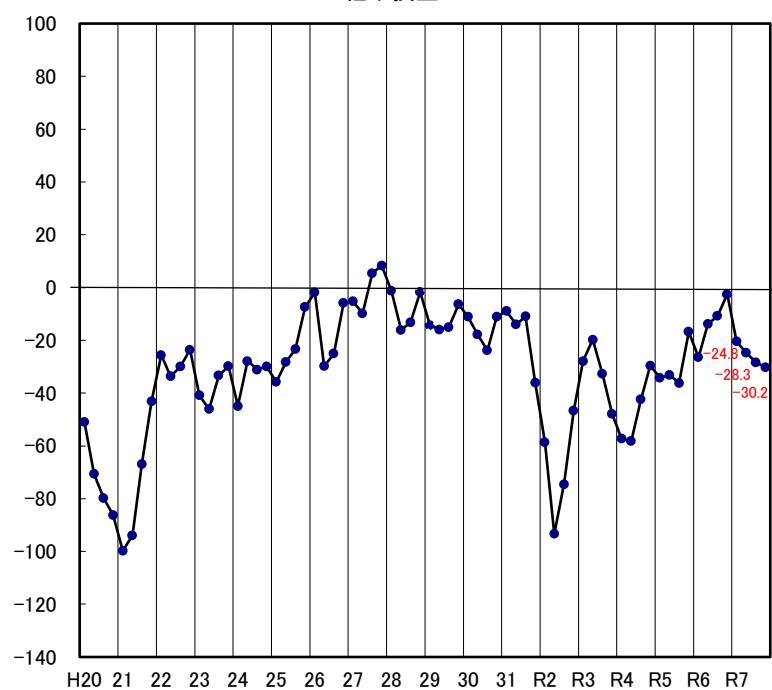
所定外労働時間



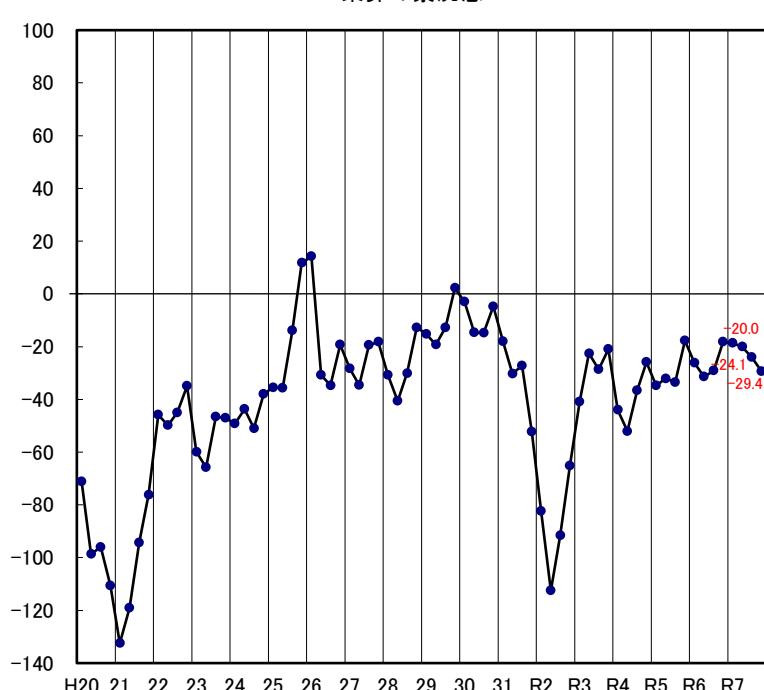
貨物の再委託



経常損益

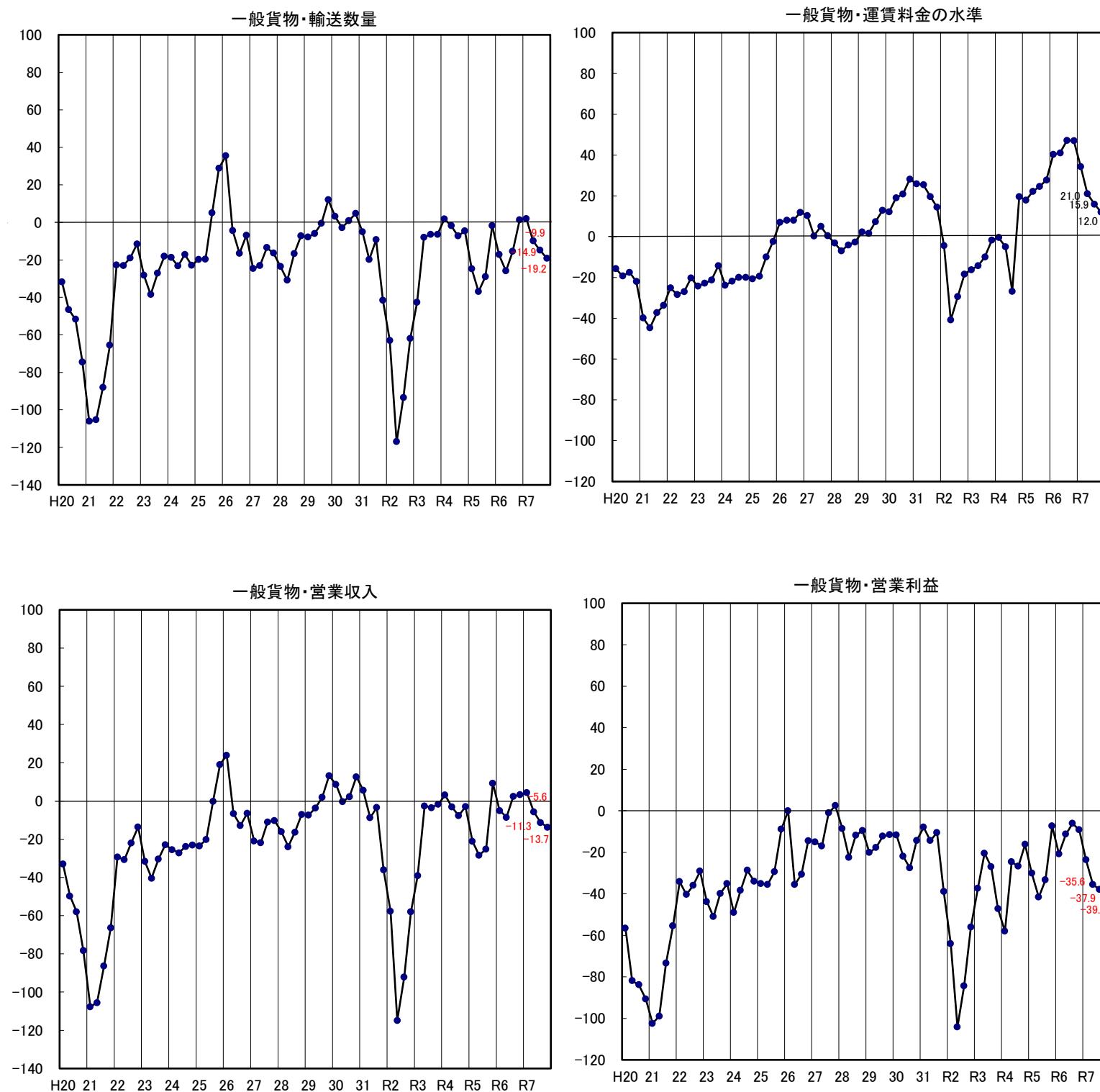


業界の景況感



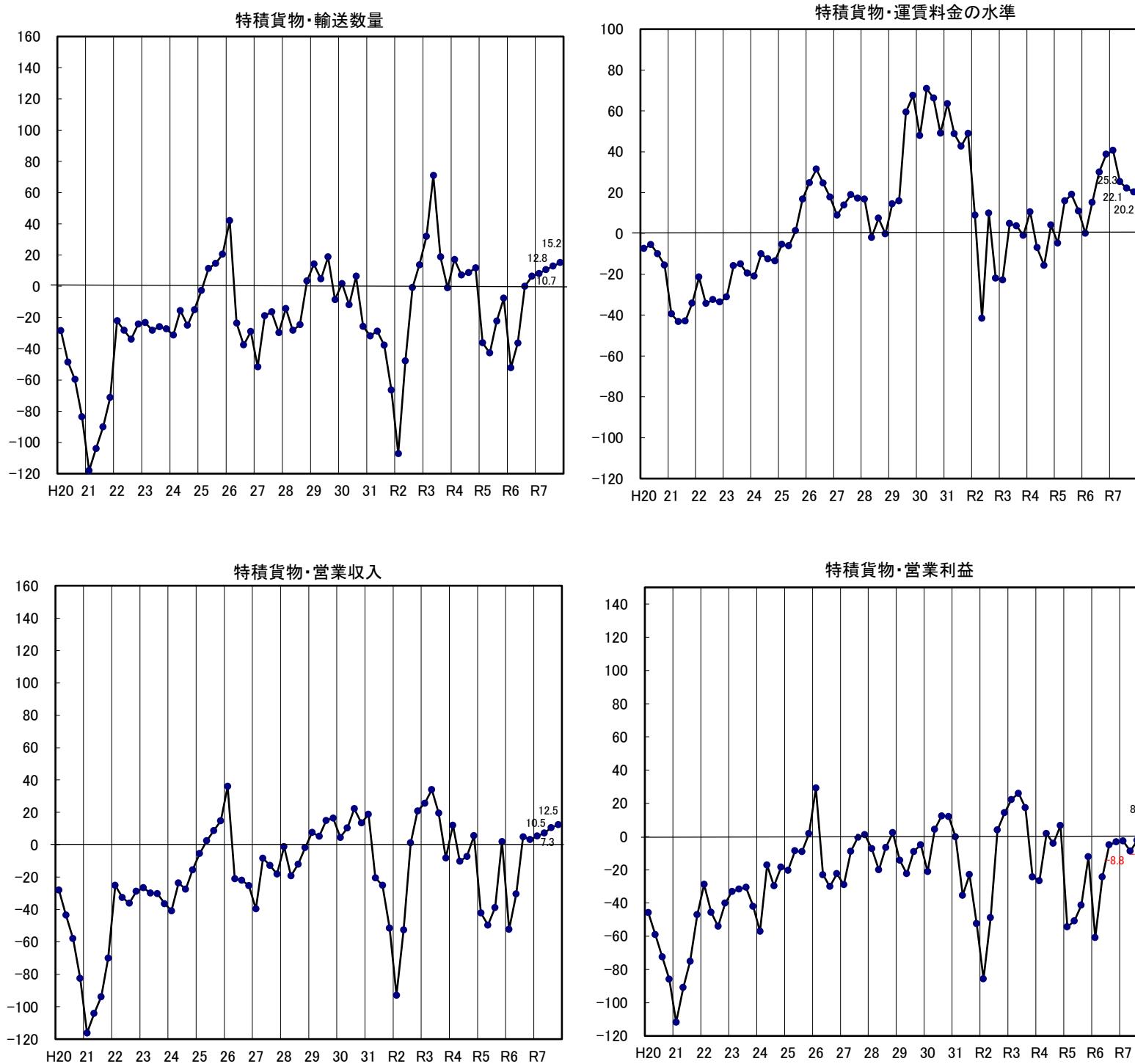
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第3四半期見通し)

一般貨物



8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第3四半期見通し)

特積貨物



※ 特積貨物として「宅配貨物」及び「宅配以外の貨物」を統合